

尾道市立美術館  
コレクション  
描かれた尾道水道



歌川貞秀《西國名所之内十六 備後尾の道浄土寺山》  
慶応元年（1865）

2023 12月3日 日 ~ 2024 1月14日 日

休館日：月曜日（ただし1/8 日 は開館）、年末年始（12/29 ~ 1/3）  
開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで） 観覧料：一般 310円、学生 210円、中学生以下無料  
※ 70歳以上・各種手帳（マイロID可）お持ちの方は、証明できるものを提示により無料。 団体（20名以上）[各50円引]

尾道市立美術館  
ONKOMICHI CITY MUSEUM OF ART  
〒722-0032 尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内 Tel.0848-23-2281

# 描かれた尾道水道 尾道市立美術館コレクション展

「描かれた尾道水道—尾道市立美術館コレクション展」を開催します。

本館のコレクションは、昭和55年(1980)の開館に始まり、以来、尾道市名誉市民の洋画家・小林和作の作品を中心に形成されてきました。この小林和作を核に、親交のあった日本画家・森谷南人子など尾道ゆかりの作家で構成されています。

本展は、「描かれた尾道水道」をテーマに、中根寛が描いた大作『尾道眺望』を皮切りに、中村琢二、中川一政など有名作家、そして小林和作の制作の秘密を知ることのできる水彩画・日本画・油彩画による尾道風景の連作などを展示します。その他、江戸時代に描かれた林寅山『尾道浦絵屏風』を紹介し、本作は現在と地形が変わらない尾道水道や島々の情景を正確に描写しており、歴史資料としても貴重な作品です。

その他、小林和作、森谷南人子など尾道を代表する作家の優品を展示すると共に、尾道ゆかりの作家と作品の数々をご紹介します。

## 【協賛事業】

第17回平山郁夫美術鑑賞絵画コンクール 作品展示

会期：2023年12月13日(水)～2024年1月14日(日)

会場：尾道市立美術館 2Fロビー ※本展観覧料が必要です。

尾道市教育委員会主催「得意なこと一緒にやりましょう」体験より「好きな絵に岩絵の具で彩色しよう♪」作品展示



会期：本展覧会会期中  
会場：尾道市立美術館  
※本展観覧料が必要です。

▲尾道市立大学の先生方に教えていただき、市内の小中学生が「岩絵の具」を使った彩色にチャレンジしました。



中村琢二《尾道水道の印象》昭和53年(1978), 油彩・カンヴァス



森谷南人子《桃花旭々》昭和15年(1940), 紙本着色



小林和作《尾道風景》昭和10年(1935)頃, 油彩・カンヴァス



林寅山《尾道浦絵屏風》江戸時代後期, 紙本着色・屏風(六曲一雙)

日東電工株式会社コラボ企画  
工作教室「光と色のワークショップ」  
-偏光板を用いた灯籠作り-



- 2023年 12月10日(日)
  - 2024年 1月6日(土)
- 両日とも 10時～12時

偏光板工作のようす  
(Instagram)



会場：尾道市立美術館 2Fロビー

対象：小学生(高学年)～中学生

※付き添いの方1名は入館無料

定員：各10名(要申込) ※多数の場合は抽選

(申込) 詳しくは美術館HPをご確認ください。11月30日(木)〆切

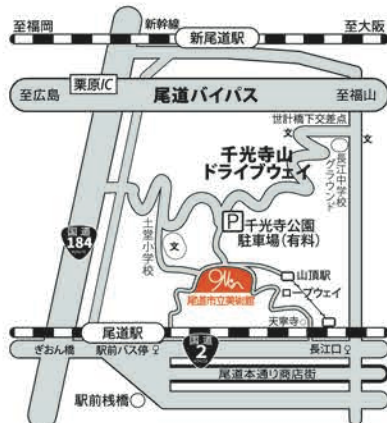
## 【アクセス】

■公共交通機関 ●JR山陽本線「尾道駅」から東行きバス(①番のりば)で「長江口」下車、千光寺山ロープウェイで千光寺公園へ。●JR山陽本線「尾道駅」/JR山陽新幹線「新尾道駅」から、タクシーで約15分。※美術館最寄り「千光寺公園」行きバスは便数が少ないため、ご注意ください。

■自動車 ●山陽自動車道・尾道ICから約20分、福山西ICから約15分 ※千光寺山ドライブウェイ経由で、「千光寺公園」駐車場(有料)をご利用の場合、入館時に駐車券の提示で1名限り100円割引。

【ご来館のお客様へ】  
感染症拡大状況により、マスクの着用・検温・手指消毒など、感染拡大防止対策のご協力をお願いすることがあります。  
また、会期の変更や入場制限などを行う場合があります。

最新情報は美術館公式ホームページをご確認ください。  
<https://www.onomichi-museum.jp/>



COCORONOMICHI

\*COCORONOMICHIとは、一人ひとりが尾道市への愛と誇りを抱くことを目的とした「シビックプライド」キャッチフレーズです。